

コロンビア月例報告（10月分）

外政・内政状況

2011年11月
コロンビア日本大使館

I 概要

【外政】

- 3日 オルギン外相のベネズエラ訪問
- 5～6日 オルギン外相のイタリア訪問
- 9～11日 アッパース・パレスチナ自治政府（PA）大統領の当国訪問
- 17～19日 コロンビアによるパレスチナ和平問題仲介努力
- 17～21日 バーゼル条約第10回締約国会議の当国開催（於：カルタヘナ）
- 21日 オルギン外相のブラジル訪問
- 24日 ベネズエラ外相の当国訪問
- 28～29日 第21回イベロ・アメリカサミット（於：パラグアイ）へのガルソン副大統領、オルギン外相の参加
- 31日 郭伯雄中国共産党中央軍事委員会副主席の当国訪問

【内政】

- 5日 司法改革に関する第一回討議終了
- 8日 労働環境改善を求める労働者及び教育改革反対の学生によるデモ行進
- 21～22日 FARCによる国軍への攻撃
- 30日 地方選挙の実施
- 31日 労働大臣の任命及び大統領府治安庁（DAS）の解体

II 外政

1 オルギン外相のベネズエラ訪問

3日、オルギン外相は、イタリア訪問のため立ち寄ったベネズエラにおいて、マドゥーロ外相と会談を行い（両国の国防相が同席）、10月末に改めて外相会合を、またチャベス大統領の健康状態を勘案しつつ、首脳会合を開催することにつき合意した。

2 オルギン外相のイタリア訪問

5～6日、オルギン外相は、第5回イタリア・ラ米・カリブ会議に出席のためイタリアを訪問した。同外相は、会議において、コロンビアが南南協力として、中米において治安協力を行っていることを紹介した。フラティーニ・イタリア外相との二国間会談においては、2015年に開催予定のミラノ・エキスポ参加及び経済関係の強化について議論が行われた。

3 アッパース・パレスチナ自治政府（PA）大統領の当国訪問

9日、アッパース・パレスチナ自治政府（PA）大統領は、25名の一行と共に、エルサルバドルより、コロンビアを訪問。サントス大統領は、首脳会談後、コロンビアは、1947年より、パレスチナが国家として承認されることを望んでいる、イスラエルとの交渉による合意を望んでいると述べた。サントス大統領は、ネタニヤフ・イスラエル首相、ブレア特使、クリントン米國務長官と電話にて、可能な限り速やかに、交渉再開が実現するよう意見交換を行ったと述べた。

4 コロンビアによるパレスチナ和平問題仲介努力

コロンビアは、カルテット声明を支持し、和平を進めることを目的として、両国と個別に精力的な意見交換を行ったところ、概要下記の通り。これに対し、国連事務総長より、コロンビアの仲介努力を多とするとの発言があった。

13日、サントス大統領がネタニヤフ・イスラエル首相と電話会談

17日、オルギン外相がイスラエルを訪問、バラク国防大臣と意見交換。

18日、オルギン外相が、ラマラにおいて、アッバース・パレスチナ自治政府（PA）大統領及びマリキ外相と意見交換。

19日、再度、オルギン外相がネタニヤフ・イスラエル首相と意見交換。さらにサントス大統領が、アッバース・パレスチナ自治政府（PA）大統領と電話会談。

5 バーゼル条約第10回締約国会議の当国開催（於：カルタヘナ）

17～21日、カルタヘナにおいて、バーゼル条約第10回締約国会議が開催され、電気機器等の有害廃棄物管理の改善等について、178カ国からの参加を得て、議論が行われた。

6 オルギン外相のブラジル訪問

21日、オルギン外相は、ブラジルを訪問し、パトリオタ・ブラジル外相と農業、食料安全保障、都市計画、人権問題等について意見交換を行った他、教育分野での協力について、5つの覚書に署名した。

7 ベネズエラ外相の当国訪問

24日、マドゥーロ外相がコロンビアを訪問、オルギン外相との間で意見交換を行った。同会合には、コロンビアより、国防相、運輸相、鉱山・エネルギー相、商工観光相が同席、ベネズエラより、内務相、科学技術産業相、文科相らが同席し、治安、エネルギー、インフラ及び社会投資等の分野で4つの覚書に署名を行った。

8 イベロ・アメリカ・サミット（於：パラグアイ）

28～29日、パラグアイで開催された第21回イベロ・アメリカ・サミットに、ガルソン副大統領、オルギン外相が参加、中南米諸国の協力関係強化の方策について意見交換を行った。

9 郭伯雄中国共産党中央軍事委員会副主席の当国訪問

31日、ピンソン国防相は当国を訪問した郭伯雄（GUO Boxiong）中国共産党中央軍事委員会副主席と会談し、軍事分野における協力協定への署名、及び中国からコロンビアに対して1千万 yuan（約150万ドル）相当の無償軍事協力を供与する合意への署名が行われた。なお、中国政府は、2001年より、テント、軍靴、軍服といった兵站や兵士の軍用私物の購入のために、約8百万 yuan をコロンビア国防省に援助している。

III 内政

1 司法改革に関する第一回審議終了

5日、議会は、司法改革について第一回討議を行い、国会議員の司法手続や議会の弾劾委員会の廃止等重要な論点について議論を行った。今後、さらに七回の審議を行った上で、法案の正否が検討される予定。

2 労働環境改善を求める労働者及び教育改革反対の学生によるデモ行進

8日、全国53カ所において、労働環境改善を求める労働者及び高等教育改革反対の学生によるデモ行進が行われたが、暴力行為等に発展することなく平和理に行われた。

3 FARCによる国軍及び国家警察に対する攻撃

21～22日、FARCは、ナリーニョ県及びアラウカ県において、国軍及び国家警察に対する複数の攻撃を仕掛け、21名の死者が発生した。サントス大統領は、犠牲となった国軍及び国家警察の部隊が、治安規則上、重大な違反を犯したことを認めた。

4 地方選挙の実施

30日、統一地方自治選挙が行われ、即日開票の結果、全国1102市の市長とその市議会議員、32県の県知事とその県会議員が選出された。政府は、合計33万6千人の国軍の兵士及び警察を全国各地の投票所に派遣、選挙当日に発生したとして伝えられた暴力事件は8件のみであった。主要都市の市長は、下記の通り。

(1) ボゴタ市長（投票率47.40%）：グスタボ・ペトロ氏（得票率32.16%）元PDAに属し、自らが新たに立ち上げた左派の急進運動（Progresismo）出身。

(2) メデジン市長（投票率50.69%）：アニバル・ガビリア氏（得票率37.66%）自由党出身。

(3) カリ市長（投票率42.44%）：ロドリゴ・ゲレロ氏（得票率42.10%）無所属、市民の署名推薦で立候補。

(4) バランキージャ市長（投票率47.28%）：エルサ・ノゲラ女史（得票率58.01%）急進改革党出身、昨年の大統領選挙の副大統領候補。

5 労働大臣の任命及び大統領府治安庁（DAS）の解体

31日、サントス大統領は、社会保障省から厚生省と労働省とに二分され新設された労働省の大臣に、ラファエル・パルド氏（自由党党首、元国防大臣）を任命した。また、同大統領は、これまで違法盗聴等の問題が発覚している大統領府治安庁（DAS）の解体に関する政令を公布、DASは58年の歴史を終えることとなった。今後、DASの機能は、検察庁、外務省、内務省、国家警察等に引き継がれる他、国家情報庁が新設される予定。

（了）